

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810-24		
自己評価作成日	平成25年6月20日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2013_022_kanitrue&lievosvoCd=4572100677-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の下、花を育てたり、野菜を育てたりして、昔を思い出し、意欲の向上につなげている。また、外出の機会を多くし、自分の行きたい所へでかける機会を持つことで、自分の住みなれた地域で暮らしていると感じられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、理念を基に、利用者の尊厳と一人ひとりの思いを大切にす支援に努めている。「行きたい所に出かけましょう」という活動では、一人の利用者に職員が付き添い、希望する場所に出かけ、非常に好評を得ている。また、月に2回は、職員手作りのパン食で利用者に喜ばれているなど、工夫がなされている。地域とのつながりにも力を入れ、町のフェスティバルに作品を出すなど、多くの人々との交流を行う努力をしている。管理者・職員のケアへの心配りが、利用者の穏やかな態度に表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングの中で、順番に唱和して、確認を行うようにしている。		利用者一人ひとりの人格や尊厳、思いを大切に、「笑顔が見られる」ことをホーム理念の中心にしている。必要なときに振り返ることで、全員で理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で買物したり、ドライブに出かけたりしている。買い物中、地域の方との会話を楽しんでいる。町のフェスティバルに作品を出展したりして、交流を図っている。		ホームは、地域とのつながりを大事にし、買い物やドライブの折に地域の人々との会話や町のイベントに作品を出展し、小・中学生や地域の人と交流している。老人会への参加も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や老人クラブの訪問の中で、日常生活の様子をお話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、活動や行事への参加報告、委員の方からの情報や意見などを頂き、ケアにつなげている。		2か月に1回ホームで開催し、活動報告と参加者との意見交換が活発に行われている。参加者の意見で、よもぎやどくだみ草を利用者とともに採取・乾燥し、入浴剤をつくり楽しんでいる例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の行事への参加や地域交流出来るようなものはないか、情報を頂いている。		北方総合支所との連携は活発であり、ホームの活動を伝えたり、市の情報を頂いたり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はいつも開放しているが、事故防止の為に、職員が付き添うこともある。研修でも、身体拘束について学んでいる。		全ての職員が、身体拘束に関する事柄を理解している。玄関は開放されており、外にでることを希望する利用者には職員が寄り添い、周囲を散歩することで落ち着きを取り戻すなど、身体拘束をしないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで研修を行い、虐待への認識を深め、処遇にあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修などで、知識を深めるようにしている。1名の利用がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約または改定時には、家族に説明を行い、同意を得るようにしている。不安や疑問に思ったことは、いつでも相談を受けられるように、お話ししている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られたときなど、なるべく家族とお話する機会を持ち、ケアにいかせるようにしている。		家族がホームを訪れる機会を増やしたり、「郷たより」に利用者の状況を書き添えたり、意思疎通が出来るように努めている。家族の意見で、冬時期のホームへの来訪のあり方を見直した例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議のなかで、意見を出し合い、情報を共有するようにしている。		月に1度、運営主体との合同職員会議、その後、ホームの職員会議を行っており、職員の意見や提案を聞いている。利用者への対応のあり方や誤薬の防止について、意見を取り入れた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握し、個々の職員に応じ、助言をされたり、相談にのって頂いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や外部研修などで知識を深めたり、資格取得に向けての機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する機会があった時には、他の事業所と情報交換を行い、参考にしていく。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやモニタリングを行い、本人の要望を伺うようにしている。職員との信頼関係が築けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や担当者会議の中で、家族の思いや要望などを聞いて、ケアに生かしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、家族などからも要望や意見を伺うことで、ケアに繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の下膳、モップかけや洗濯物を干したり、畳んだりして頂くことで、役割を感じられるよう支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を郷のたよりなどで報告したり、体調の変化のあった場合は、病院受診などの対応もして頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお店に出掛けたり、行きたい所に出かけましょうなどで、本人の行きたい所を訪ね、本人が地域と繋がっていることが感じられるよう支援している。	ホーム独自の活動である「行きたい所に出かけましょう」で、一人の利用者に職員が同行し、生まれた実家や墓参り等を行っている。利用者が、自身の地域と今もつながっていると感じられる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく活動や行事に参加して頂き、利用者同士の交流をして頂いている。また、A棟、B棟合同の行事も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や本人の状態を関係機関に情報を伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングの中で、本人の希望する暮らしを聞き、ケアにつなげている。意思の疎通が困難な場合は、本人が笑顔になれるような生活を支援している。		アセスメントの内容や日常のケア活動の中で、利用者の思いや希望を把握し、それを実現する努力をしている。意思疎通が難しい場合は、笑顔が見られるようにケアに努めている。入浴時は、思いを聞きだすいい機会である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から昔の様子を伺い、本人が楽しく過ごせるよう、また、意欲をもてるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリングの中で、本人の状態を把握し、ケアに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや職員の意見、担当者会議で家族の意見を伺い、計画に繋げている。		利用者ごとに担当者が決まっており、モニタリングの際に、本人や担当職員の意見を聞いている。サービス担当者会議では、家族の意見を伺い、現状に即した介護計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別の介護経過を記録し、職員で情報を共有することで、職員全員が本人の状態を把握するように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が通院対応困難な状況であれば、訪問歯科診療なども受けられる体制がある。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害に備え、地区の消防団と合同の避難訓練を実施したり、地域の商店に出かけ、買物や知り合いの人と会話する機会もある。地域の美容師の方に来て頂き、散髪を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、当事業所の協力医の説明を行い、家族の同意を得、往診を受けられているが、他にもかかりつけ医を持っておられる方もいる。家族同伴の下、受診をお願いするときもある。	多くの利用者は、ホームの協力医が掛かりつけ医であり、火曜・金曜日に往診を受けている。他の掛かりつけ医の利用者は、家族に受診をしてもらうが、医療機関との連携はできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られた場合は、早めに看護師に相談したり、往診の際に医師に相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報を交換している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に、入所時重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、確認を行うようになっている。	利用開始時に、本人・家族には、重度化した場合や終末期のあり方についての希望を「病気および急変時の対応について」という同意書により、意思表示を受けている。地域の医療機関との連携もできる。現実にその状況になれば、再度話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。研修を行い、対応できるような体制作りにも努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災、地震、土砂災害や昼間想定であったり、夜間想定であったりと、状況を変えて訓練を行っている。地区の消防団が参加して、年2回の総合避難訓練がある。	毎月、各種の災害に備えて、夜間想定も含めた避難訓練をしている。現実に、大雨の際に併設施設の3階に避難した経験もある。地区消防団との総合避難訓練を年2回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを傷つけないような声かけに配慮しているが、親しくなりがちであり、時々ミーティングの中で話し合い、再度、声掛けに気をつけるよう確認を行っている。		ホーム理念でも重要視している事柄であるが、日常のケア活動において、現実には難しい項目でもある。親しくしてもなれ合いにならないよう、声かけには常に気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びや外注で昼食のパンを選ぶことをしていただいたり、お風呂の希望を聞いたりなど、ささいなことではあるが、本人の希望を取り入れることが出来るよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間や活動への参加など、本人の体調や気分に合わせて対応を行っている。自由にお部屋で休んだり、テレビを見たりされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際や朝の着替えなど、自分で洋服を選んで頂いたりしている。理・美容は、2ヶ月に一度、本人の希望をお聞きしながら、散髪されている。入所時に、馴染みの美容院があるかなど、家族にも聞いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるときには、好みのものを聞いて参考にしたり、一緒に地域のお店に出かけ、食材を選んで頂いている。おやつにクッキーやおはぎ作りに参加して頂くことで、自分で作ったものを食べる楽しみともなっている。		利用者の好みで献立を考えたり、月に2回は職員手作りのパン食会をしたり、食事を楽しんでもらえる工夫をしている。下ごしらえや下せんしたり、できることは利用者も一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日決まった時間には水分補給して頂いているが、他にも自由にお茶が飲めるように、ペットボトルに用意したり、声かけを行っている。食事は、摂取量の確認や摂取状況を見ながら、対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきが出来るよう誘導を行っている。義歯は夜間、洗浄剤に浸したりして、清潔を保つようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔をチェックし、時間を見ての誘導や体動からのサインを見逃さないようにしている。また、少しお手伝いをすることで、排泄時の失敗を減らし、自信にも繋がっていると感じている。		各個室にトイレがあることで、排せつ時の安心感があり、トイレは自動点灯のために夜間の利用が分かりやすい。排せつチェック表の活用で、自宅で暮らしていたころよりも排せつの自立が実現できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに牛乳を取ったり、食事に野菜を多く取り入れている。腹部マッサージや毎朝のラジオ体操など、適度な運動をすることで便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や希望に沿って入浴していただいている。お湯加減や時間を聞いて、湯舟にゆっくりとつかっていただけるよう配慮している。菖蒲湯やよもぎ湯など、季節や香りも楽しんで頂いている。		月曜日から金曜日までは、浴場は常に使える状態にしており、利用者の希望に沿った入浴をしている。浴槽は、左右どちらでも介助が可能である。浴室では、利用者の思いや希望を聞く場所ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の休みたい時に休んで頂いている。眠れないようなときには、お話を聞いたりして対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないように、声出し確認を行っている。本人の状態が変化した場合は主治医に相談し、指示、処方を受けている。また、その後、経過の報告も行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や食器の下膳、洗濯物たたみなど、お手伝いをして頂く事で、自分の役割と感じられるよう支援している。外出や好きなカラオケをすることで、気分転換にもなっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月のドライブや一人の人に寄り添い、本人の行きたい所に出かけるような支援も行い、家族にも協力を頂いている。故郷訪問など、自分の出身の地区をドライブするなどの機会もある。		「行きたい所へ出かけましょう」活動で、普段は行けない所に出かけ、利用者にも喜ばれている。買い物やドライブ、また、保育園と合同で延岡の七夕祭りに出かけたこともある。外出支援には、伝統的に工夫を凝らしている。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時には支払いをしていただいたりして、自分でできることを感じて頂けるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、本人に取り次ぎ会話していただいている。本人の書かれた手紙を郷の便りと一緒に送っている。年賀状や暑中見舞いなども出されている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、落ち着いて過ごせるよう、季節の花を飾ったり、自分達で作成した壁飾りを飾ったりしている。自由にベランダに出て、外の景色を眺めたりしていただくことができる。		食堂兼居間から、空・山・川の眺望ができ、広く明るい。季節の花や利用者皆で作った壁飾りなどが飾られている。西日を和らげる緑のカーテンが育ちつつあり、居心地への工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのほかにも腰掛けることのできる置のスペースもあり、自由に過ごすことができる。居室にもソファがあり、利用者の方が他の利用者の方と会話し、楽しく過ごされることもある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな絵や自分で作った壁飾り、家族の写真などを飾ったり、自分の衣類ケースなどの持ち込みをされている方もいる。		居室は、トイレ・洗面台・ベッド・整理タンスなどが設置され、飾りや写真は本人の好みに応じている。簡素ではあるが機能的で、かつ利用者の居心地に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、手擦りつきのトイレや共有の浴室にも手擦りを設置している。手擦りを使用し、安全に排泄や入浴が出来るようにしている。			